

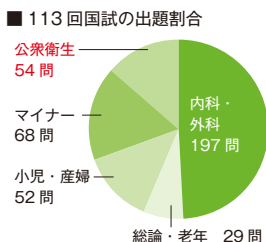


公衆衛生対策

国試出題数1位は公衆衛生

⑤最も多く出題される科目、公衆衛生⑤

国試において最も出題される科目は何でしょう？それは**公衆衛生**です。循環器や神経など、いかにも多く出題されそうなメジャー科目群を抑えて毎年、不動の1位。年によって多少の変動はありますが、循環器や神経が毎年25問くらい出題されているのに対し、公衆衛生は約50問と2倍くらい出題されています。113回では54問出題され、国試400問のうち実に13.5%を占めました（次の項目を含め、小社基準によるカウント）。



国試で最も重要な科目は公衆衛生、といっても過言ではありません。

⑥一般問題はもちろん、「必修」「臨床」にも要注意⑥

公衆衛生は特に一般問題においてその割合が高くなっています。112回では100問中32問、113回では100問中35問が公衆衛生でした。一般問題の合格基準をクリアするためには、公衆衛生対策を万全にすることが欠かせません。

公衆衛生は科目の性質上、一般問題での出題が多いのですが、必修問題・臨床問題でも出題されます。回によって多少ばらつきはありますが、公衆衛生の必修問題は出題数にして10～20問、点数にして15～30点となっており、必修の点数の10～20%を占めています。113回では、15問が出題され合計29点、必修の点数の14.5%を占めました。合格ラインが80%の必修問題においても、公衆衛生の重要性は変わりません。

⑦過去問対策が他科目以上に重要⑦

113回の400問中、過去の国試と類似の問題は80問でした。全体の20%、つまり5問に1問を占めています。またこの80問中、プール問題・ほぼ同一の問題は24問で、そのうち8問が公衆衛生でした。国試対策において過去問演習は必須ですが、公衆衛生ではその重要性がいっそう大きいといえます。

🎧 講義動画＋過去問演習が対策のスタンダード🎧

公衆衛生の重要性がはつきりしたところで、実際の対策法を見ていきましょう。最近の受験生に話を聞くと、**問題集での過去問演習と予備校の講義動画を組み合わせる、というのが多数派**です。取っつきやすい講義動画は、公衆衛生対策においても9割以上の受験生に利用されています*。

* 113回医師国家試験採点サービسانケートより（有効回答数 3,843人）

メディックメディアの講義動画「**mediLink 動画**」でも、人気講師・Dr. 盛永による「**Dr. 盛永の公衆衛生 2019**」を配信しています。



Dr. 盛永より

公衆衛生は仕組みとポイントさえ理解すれば、断トツでコストパフォーマンスがいい科目です。公衆衛生は裏切りません！ただ勉強するだけではなく、短い時間で効率よく、そして楽しく勉強しましょう。公衆衛生の勉強に革命を起こします！

QB公衆衛生



公衆衛生は基本的に定番問題が多いため、**過去問演習**をしっかりと行えば十分に合格点をとることができます。まずは8割を超える受験生が使っている*問題集「**QB 公衆衛生**」を解くことが、合格レベル確保への近道です。遅くとも年内に1周しておきましょう。公衆衛生で何が問われるかが把握でき、全体像が見えてきます。そのうえで本番までに2～3周すれば、十分に合格点をとることができるはずです。

* 113回医師国家試験採点サービسانケートより（有効回答数 3,843人）

RB公衆衛生



メディックメディアでは、合格をより確実にするために、「**QB 公衆衛生**」と「**レビューブック公衆衛生**」をあわせて使うことを推奨しています。「**レビューブック公衆衛生**」は、国試合格レベルの知識が短文形式でコンパクトにまとめられているため、知識の整理に最適です。実際に国試で問われた部分を下線＋国試番号で示しているため、重要ポイントが一目でわかるようになっています。

また、理解するのが難しい用語や概念、法制度については「**Lecture**」というページを設け、講義調のやさしい文章で解説。公衆衛生が苦手な人でも読みやすいようにしています。

🎯 平成30年版出題基準の新ワードを押さえる🎯

112回より適用された「平成30年版医師国家試験出題基準」において、公衆衛生範囲でも新しい項目が多数追加されました。「出題基準に新たに追加された項目」と「過去問ではまだ出題のない、または少ない項目」について、「**QB 公衆衛生**」では**予想問題**を計40問収録。「**レビューブック公衆衛生**」でも、同様の項目についてフォローしています。「**難病法**」「**SDGs**」などの新項目を、「**QB 公衆衛生**」「**レビューブック公衆衛生**」でチェックしてみてください。